

JSQCニュース 1995年2月 No.178

発行 社団法人 日本品質管理学会 東京都渋谷区千駄ヶ谷5の10の11 (財)日本科学技術連盟内 電話 (03)5379-1294

「TRG—新しいTQC像を求めて—」

東京大学助教授 飯塚悦功

TRG結成

1990年3月頃であったと思う。TQCは、その哲学、方法論、適用法、指導者などいろいろな面で転機を迎えており、何かしなければ危ないと感を強く抱くようになっていた。冷やかに論じるよりは実践して失敗した方がまし、批判する側よりはされる側の方が格が上、とにかく始めることが重要であろうと何人かの方の賛同を得た。

そこで、若手のQC指導者の共同研究、意見交換、研鑽の場としての研究会を設立して、共通の価値観をもってより望ましい方向に向かって努力していくネットワーク作りを具体的に考え始めた。活動には少なからぬ資金が必要だが、これは日科技連が援助を惜しまないと言ってくれた。1990年6月30日に設立準備会を開き、研究会の名称をTRG(TQC Research Group)として、

- ・若いTQC研究者のネットワークを構築する。
- ・若手が本音で本気の議論をして、TQCの課題について方向づけをする。
- ・TQCという領域を確固たるものとし若い研究者の増加を促す。

を目的として活動を開始した。

ワークショップ

発足当時は15名程度で構成される幹事

会メンバー間の議論が中心であった。休日を利用した1~2日の会合では議論が発散気味ではあったが有意義であった。その後は、次第に、研究テーマごとに組織した各WG内の共同研究に、活動の中心が移っていました。当時のTRGへの参加者は、WGのメンバーも加えると50名くらいではなかったかと思う。

こうした活動の過程で、TRGという活動のPR、いくばくかの成果の報告など、何らかのアウトプットが必要であるとの提案がなされ、ワークショップの開催を検討した。1992年と93年の4月、私たちの議論の中間報告として、「新TQC像をめざして」と題するワークショップを2回開催した。参加者は限定し、TRGのメンバーが今後のTQC研究の方向づけとしての問題提起を行い、これを題材にして議論を行った。

公開シンポジウム

各WGは、その後もそれぞれ独自の運営で意見交換・議論を行ってきた。その過程で、それまで進めてきた検討の結果を、公開の場で有料の参加者に対して報告すべきであるとの機運がでてきた。昨年6月に「TQCの新パラダイム構築をめざして—21世紀に向けて新TQC像を探る—」という大仰なタイトルを冠した公開のシンポジウムを開催した。参加者との議論の中から今後の活動の方向を探

る意味で有意義であった。不満も残ったが、何らかのアウトプットは必要であり、今後も続けていきたいと思っている。本年は10月14日(土)に東京で開催する予定である。

TRGのこれから

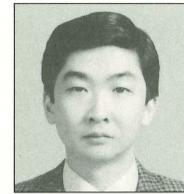
TRGを始めて4年半になる。いま取組んでいる「TQC導入ステップ」「TQCのレベル評価」「信頼性技術」「QC工程図の活用」「商品企画七つ道具」「戦略立案と方針管理」「これからの工程管理」といったテーマは、いずれもこの秋のシンポジウムで一応の区切りをつけたいと思う。その活動成果は、論文、解説、セミナーなどを通じて発表していきたい。一部のテーマについては出版という話も持ち上がっているので、具体的な作業にとりかかりたい。

実はいまTRGには発足当初のような熱気はない。マンネリとでも言うのだろうか、自分にとって得る所が少ないとみて足が遠のくというあの現象も起きている。TRGは相互研鑽、情報交換、ネットワーク作りの場を提供するという初期の目的は達成したと思う。これからは共同研究による実質的な成果を期待できる運営をしていかねばなるまい。そのためには曆年で「若手」にこだわらないメンバー強化も考えたい。

私の提言

教育の品質

東京理科大学 助教授 尾島善一



アイザック・アシモフのSFの短編に「プロフェッショナル」(ハヤカワ文庫SFの短編集『停滞空間』に所載)がある。その背景は、教育が究極的に進化した世界である。そこでは子供は8歳になると読書能力を脳に入力する機械によって文字の読み書きを身につける。また18歳になると、職業人として必要な知識のすべてを同種の機械によって数分のうちに身につけるというものである。この世界では、本を読んで勉強するという方法は時間が掛かりすぎて見向きもされなくなっている。

昨今は大学教育も、教養の改組・カリキュラムの大幅な変更など大きく変化しようとしている。これに伴い大学の講義についても、その詳細な内容とスケジュールを記したシラバスの公開が求められている。これも大学教育のサービス性の向上といえるであろう。

今の若い者は…、というわけではないが、学生の勉強態度に変化が起こっているように感じる。学習塾の隆盛ぶりやコンピュータの発達などにより、簡単に知識が入手できるようになってきた。またコンビニエンスストアなどの進展で生活そのものが簡単・便利になっている。知識獲得の面でも簡単・便利といったサービス性が要求されるのは当然であろう。

私も数年前から必修科目について、時間内演習・学期途中の中間試験を実施するなど、サービス性の向上に努めている。この結果、学生の理解度はかなり改善されたように見える。しかし効果が挙がっているのは、答の求め方といった部分だけで、考え方の理解度は余り変化がない。もちろん私の教え方にも問題は残るが。

一般に教育によって伝えられる内容には、技術の伝達・背後の理論の2つがある。技術の伝達は反復練習などサービス性の工夫が効果を挙げるが、理論の部分は簡単にはいかない。前に述べたSFでも実はそれを主題としていた。

大学教育の品質を向上させるためには、理論の教育のサービス性を如何に挙げるかに、本気で取り組まなければならないと言うのが私の提言である。

専門学校でもカルチャーセンターでもない、大学の存在意義を確立するために、それが必要なのである。

各種行事の申込先

○本部：〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-10-11、日本科学技術連盟内、日本品質管理学会事務局、電話 (03)5379-1294

○中部支部：〒460 名古屋市中区栄2-6-12、白川ビル、日本規格協会名古屋支部内日本品質管理学会中部支部、電話 052(221)8318

○関西支部：〒530 大阪市北区堂島浜2-1-25、中央電気俱楽部、(財)日本科学技術連盟内、(財)日本品質管理学会関西支部、電話 06(341)4627

行 事 案 内

●第204回事業所見学会（中部支部）

見学者：アイシン・エイ・ダブリュ工業㈱
福井県武生市池の上町38

事業内容：自動車用オートマチックトランスミッション
部品の製造、販売

日 時：4月13日(木)13時20分～15時50分
定 員：50名会員優先、同業他社お断り
申込締切：4月7日(金)到着分まで、ただし定員になり次第締切

参加費：会員2,000円 会員外3,000円
会費は開催日までに銀行振込で
ご送金下さい。さくら銀行

名古屋支店(普)No.5225620

(社)日本品質管理学会中部支部

申込方法：ハガキ又はFAXで会員No.,
氏名、勤務先、所属(役職),
TEL番号、連絡先住所を明記
の上中部支部事務局までご送付
下さい。折り返し参加要領をお
送りします。

●第46回研究発表会（発表募集）

開催日時：1995年5月27日(土)10時30～19時
会 場：日本科学技術連盟 本部

(1) 研究発表・事例発表の申込締切

○研究発表・事例発表の申込締切 3月
17日(金)(発表要旨200字詰原稿用紙1枚以内)

○予稿原稿の締切 4月21日(金)
(原稿の書き方参照 [22字×40行×2]×4枚以内)

(2) 発表会参加申込締切：5月19日(金)

(3) 研究発表・事例発表の申込方法
会員No.、氏名(発表者には○印を記入),
勤務先、電話番号、連絡先を明記のう
え、発表要旨を添えて上記期日までの
事務局宛送付してください。

(4) 申込方法

会員の方には、研究発表会ご案内参加
申込書を送付します。会員以外の方は、
ハガキで事務局まで参加申込書をご請
求ください。

(5) 申込先 (本部)

(6) 連絡事項

①発表申込書が着き次第、事務局から
折り返し「原稿の書き方」を送付い
たしますのでこれにしたがって予稿
原稿を作成してください。

②研究発表者の方も参加申込みの手続

きが必要です。

③期限は厳守してください。

④発表会参加申込書は4月下旬にプロ
グラムと併せて郵送します。

●第203回事業所見学会（本部）

見学者：日本電気フィールドサービス㈱
(府中市住吉町5-22-5)

大型コンピュータの保守修理

日 時：4月20日(木)13時30分～16時30分
テーマ：「マルチメディアによるシス
テム修理の実際」

定 員：30名(会員優先、同業他社の
方はお断り、定員で締切り)

参加費：会員1,500円、会員外2,500円

申込方法：ハガキまたはFAXで会員No.,
氏名、勤務先、所属、電話No.を
明記の上、本部事務局まで。

●第3回ヤング・サマーセミナー

8月開催の予告

本年度開催予定の第3回ヤング・サマ
ーセミナーは、(株)リコーのご支援をいた
だき、8月29日(火)～30日(水)、山梨県の山
中庄で開催することになりました。追って
詳細のご案内をいたします。

アイシン軽金属における「つくりの革新」

アイシン軽金属(株) 常務取締役 磯貝光之



1. はじめに

当社は、富山県が新産業都市の中核として企画した、アルミコンビナートへの進出要請に応えて1970年に自動車部品を主体としたアルミダイカストメーカーとして設立された。その後1975年に押出分野へ進出すると共に、それぞれの機械加工・組付けと規模の拡大をはかってきた。

現在はオールアイシン13社中の1社として、共通の「品質至上」を基本理念とし、活動している。

当社では、1981年6月にTQCの本格的導入を宣言し、以来継続的にTQCを柱とした企業体質の強化を実践してきた。その過程では、「'83年、「'88年と二度のデミング賞実施賞を受賞することができた。また、「'89年5月にはTQCの一環としてのPMを導入し、設備面から品質・生産性の向上活動を展開し、「'92年にPM優秀事業場賞を受賞することができた。

2. TQCをベースに経営革新

バブル経済崩壊により自動車産業界は苦境に陥り、当社もかつてない厳しい環境に直面した。そこで、この機に経営方針を大きく変換し、「'95年のビジョン95Vを見直すこととした。そして「TQCをベースに経営革新」を進め、売上げの伸びない中でも、利益を確保できる体質を早期に築きあげ、それを土台に世界レベ

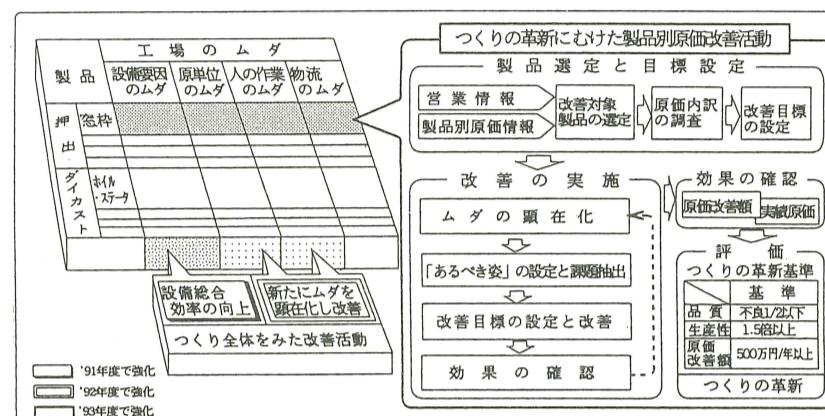
ルの自動車部品メーカーへ飛躍していくことをめざし、「'92年度はモデルラインで成果をあげた設備総合効率の向上活動を全社に展開するとともに、つくり全体をスルーで見て、設備面に加えて、原単位、人の効率化にも眼をむけ、新たなムダを顕在化するとともに、それらのムダが損益費目のどこに関連するかを明らかにして改善した。

「'93年度は競合の参入に加えて、円高の急進により価格競争が激化してきたため、つくり全体をみた改善活動を展開するとともに、製品別の原価改善を推進し革新的な品質・生産性の向上に取り組んできた。競合に勝つ「あるべき姿」を描き、それを達成する為の課題を抽出し、「あるべき姿」を達成する活動を進めてきた(図1)。

その結果、つくりの革新とよべる大きな成果を上げ、シェアアップにつながる

(経営活動の重点)

1. 環境変化に即応できる経営企画・管理の革新
2. 競合に優位に立つ革新的な新商品の企画・開発・生産・販売
3. つくりの革新



3. つくりの革新

商品を革新する為には、品質・コストで競合が追従できないように「つくり」そのものを変えなければいけないと考え、「つくりの革新」に取り組んだ。ここでなぜ「つくり」という言葉を使ったかというと、「ものづくり」の大切さを当社の伝統として受け継いでいくためには、作業者も巻き込んだ泥くさい活動を地道に進めていく事が不可欠であると考え、あえてひらがなで「つくりの革新」と命名した。

そしてTQCの一環としてのPMで培った力をベースに活動を進めてきた。

製品もでてきた。また、この活動により利益確保に貢献できた。

4. おわりに

以上、当社の経営革新とその重点実施事項の「つくりの革新」について述べたが、その活動の確からしさを外部の先生方に評価して頂くため、「'94年度の日本品質管理賞に挑戦し、受賞することができた。今後は今回の受賞を1つのステップとして、先生方の貴重なご意見をふまえ、さらに「TQCをベースにした経営革新」を進めることにより、いかなる厳しい環境下にあっても勝ち抜いていける企業体質の強化に努めていきたい。

'95年度開催のQCの関係国際行事

- ☆International Symposium on Quality Function Deployment
TOKYO (日本)
3月23日～24日
- ☆ASQC 49th Annual Quality Congress
CINCINNATI (米国)
5月22日～24日
- ☆39th EOQ Annual Congress
LAUSANNE (スイス)
6月12日～16日
- ☆First World Congress for Software Quality
SAN FRANCISCO (米国)
6月19日～22日
- ☆The 9th Asia Quality Management Symposium
SEOUL (韓国)
9月28日～30日
- ☆International convention on QC Circles
YOKOHAMA (日本)
10月18日～20日

★第7次ソフトウェア製品品質管理調査団 6月13日～25日 アメリカ

★第24次品質管理海外視察団 6月予定 欧州

環境管理研究会 会員募集 —環境ベンチマーク(研)を改称—

現在、ISO14000として環境管理システムの国際標準が検討されている中、改めて品質管理と環境管理の関係的重要性が認識されています。また、日本企業の対応策の特徴として、個別には相当良くやっているが、システムとして第3者に見えにくい環境管理システムを、いかに早く低コストで実施し、環境規制値／認証制度をパスするか等新たな企業間競争が起りつつあります。本研究会ではISOの動向、社会の諸規制を見つめながら、○環境管理の国際規格、環境管理・環境監査、LCA ○公害防止と環境管理 ○品質管理におけるベンチマークイング ○環境ベンチマークイングとは何か等々のようなテーマをトピックスとして取り上げ、研究を進めていきます。この

分野に興味を持たれる会員の方々の研究会への参加を歓迎いたします。

(主査 木村 誠)

開催場所は日科技連本部(千駄ヶ谷)、参加希望の会員の方は氏名、連絡先をハガキまたはFAXに記入の上、本部事務局までお申込みください。

◇第9回アジア品質経営シンポジウム ソウル1995研究発表報文募集!!

日 時：1995年9月28日(木)～30日(土)
会 場：Hotel Lotte Convention Hall,
Seoul, KOREA&Plant Visit
参加費：\$150 Registration \$80 Reception \$40 Plant Visit \$30
報文募集：アブストラクト 3月31日
発 表 要 旨 5月31日
送付先：Dr. Chang Wook kang
Department of Industrial Engineering Hanyang University
17 Haengdang-dong, Sungdong-Ku, Seoul 133-791, KOREA
TEL 82-2-290-0470
FAX 82-2-299-0889

理事會活動 静

●第274回理事会

日 時：12月14日(木)17時～19時10分
会 場：日科技連1号館2階A室
1. 庶務・資格審査・規定・会計合同(委)
(1)第273回理事会の議事録の確認が行われ承認された。

(2)文部省から通知のあった平成7年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」に係る「研究成果公開発表(B)」の募集については研究開発委員会および行事委員会で対応を審議することになった。

2. 編集委員会

①論文審査期間の短縮 ②英文での投稿を認める件 ③論文奨励賞規程の改訂、の3件について編集委員会で検討中であることの報告があり、これに対し意見交換が行われた。

3. 國際委員会

大韓品質経営学会(KSQM)から会長および国際委員会委員長宛に9月28日から30日までソウル市で開催される第9回アジア品質経営シンポジウムおよびKSQM30周年記念行事の招待状が届き、受諾することを決めた。

阪神大震災のお見舞い

この度の阪神大震災において犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害を受けた会員、その他関係者に対して心からお見舞い申上げます。

今回の地震はこれまであまり経験のなかった活断層直下型の地震で、予想をはるかに上回る被害が発生致しました。

電気、電話などはとりあえずの復旧が行われたものの、水道、ガス、鉄道、道路、住宅などの復旧にはかなりの期間を要する模様で、その間不自由な生活を強いられることになりますが、頑張ってこの苦難を乗り越えていかれることを願っております。

寒さなお厳しい折りから、御自愛のほどお祈り申し上げます。

1995年2月 (社)日本品質管理学会

1994年12月の入会者紹介

1994年12月14日の理事会において、下記のとおり、正会員12名、準会員4名、賛助会員1社1口の入会が承認された。

(正会員) 12名 (敬称略)

○高橋恵一(協和発酵工業)、○野見信男(大和ハウス工業)、○岸田健二(愛三工業)、○横地達夫(旭化成工業)、○浅野満男(竹中工務店)、○江島弘尚(日本航空)、○森 詳介(関西電力)、○横田 晃(住友金属鉱山)、○八木誠治(ボーラ化成工業)、○野澤史郎(カルソニック)、○吉岡秀興(松下電工)、○秋山邦雄(日本建鐵)(準会員) 4名

○谷口恒太郎・高山健司・青島克浩・鹿又嘉孝(東京理科大学)

(賛助会員) 1社1口

○三菱マテリアルシリコン(代表取締役専務 澤田泰夫)

12月14日現在の会員数

正会員：3162名、準会員：57名

賛助会員：245社、270口